
墜っこちた空

水奈べあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
墜つこちた空

【Nコード】
N0925Y

【作者名】
水奈べあ

【あらすじ】
新しい世界で新しい記憶を紡ぐ少女の、何だかぶつとんだお話。

いち、（前書き）

現実逃避がしたかったんだ、許してくれ。 お時間ありましたらどうぞ宜しくお願いします。 感想頂けたら喜びます。

いち、

「こつちに来て、もう辛い世界とはおさらばよ。あなたも今日から楽しい人生を送れるの」

その儚い笑顔は、どこか悲しそうでもあった。人々はその瞳に誘われて、それはそれは楽しい世界へと旅立つ――

* * *

随分と永く眠っていたようだ。

気が付いた時には、少女は寝心地のとても良いふかふかのベッドの上に横たわっていた。

ここが何処だか、彼女には検討もつかない。それどころか、自分の容姿や名前、何から何まで記憶にないのだ。

「……？」

ただ、今までにないような深い喜びだけが胸の奥から湧き上がってくる。この感情は何なのか。

ベッドから降り、辺りを見回してみる。

小さな部屋。あるのはふかふかのベッドに小さなテーブル、ピンクの可愛いソファ。そして、カーテンの向こうからは暖かい光が感じられる。

カーテンを右端にくくり、ガラガラと音を立て小さな四角の窓を開けると、目の前に広がるのは延々と続く緑であった。否、よく見ると白や黄色、ピンクといった様々な色が所々に咲いている。それはそれは雄大な草原であった。

窓から見るこの高さからして、おそらくここは何かの建物の二階といったところか。

「わぁ、凄い……」

思わず漏れ出たその声で、少女は初めて自分の声を認識する。自分の声はこんなにも澄んでいただろうかと思いつくと同時に、この世界についてもっともっと色んなことを知りたくなった。

「早く、早く」

興味に掻き立てられてはしゃぐ姿は、まるで幼い子供の様である。先ほどは目に止まらなかったが、部屋の端っこに遠慮がちに佇んでいる扉を見つける。扉の開け方くらいは記憶のない少女だって知っている。

左右に、長い廊下が続いていた。目の前は壁、そしていくつもの似たような扉。どうやらこの建物、たくさんの部屋があるらしい。もっとも、それが建物としては普通なのであるうが。

廊下の端には上へ上る階段と下へ下りる階段とがあったが、取り敢えず少女は下へと急ぐ。

目の前に広がる美しい光景に少女は我をさえ忘れ、その場に寝転び雲一つない青空を眺めた。とても気持ちがいい。とても久しぶりの感覚だ。

「はいはい、気持ちよさそうにしてるところ悪いですけどー」

不意に、少女の視界に影が出来る。

「!？」

「ようこそ、新しい世界へ。君は二千四百七十三人目のお客さんですっ」

影はどうやら、少女に向かって話しかけているようである。しかし逆光見えづらいその影の正体は不明である。妙に子供らしい声からして、どうも少女よりは年下であるらしい。

「誰？」

その場から起き上がった少女は、せっかいい気分であったところを邪魔されたので、少々ムツとした顔で影の正体を見つめた。

「やや、これは申し遅れましたあ、ワタクシめはこの世界の案内人、名をナウと申します」

たった一メートル程の背丈、派手な道化師の衣装に身を包む彼（

彼女？）はどこからどうみても怪しい者にしか見えない。顔にも派手なペイントがしてあるが、くりくりとした丸い目はやはり幼い子供を思わせる。

「え……と、宜しく、ナウさん」

あまりにも突然の出来事に、少女は素直に宜しくと言うことしか出来なかった。

そして、ハッと気が付くのは。

「ねえ、ここは何処？ 私は誰？」

あらゆる場所で何度も何度も繰り返され便利すぎて使い古されたこの言葉。

「ここが何処かって？ だから、新しい世界ですよー。君は運良くここに招待されたんでございます。そんでもって君の名前……は、そりゃ君にしか分からないはずですけどねー？」

確かにそうである。しかし少女は自分の名前をどうしても思い出すことが出来なかった。というか、そもそも自分の名前が存在したのかどうかでさえ不確かなのである。

「うーん、でもよくわからないの。元の世界の記憶も、その世界での私の記憶もないわ。ていうか、世界って何なの？」

「難しいことを言われなさるなあ。記憶がないなら今からつくればいいだけのこと、名前も何もかも自分で決めてしまえばいいじゃないですか」

ナウという名の、どこか喋り方が可笑しな道化師は頭を掻きながら苦笑いした。

「そつかあー、でもそんなこと急に言われたって分かんないよ。取り敢えず私は私でいくわ」

「ほうほう、それも面白い決断である。とにかくここは自由な世界なのです、全ては自由にして下さいまし」

自由に、と言われてもこんな状況で何を自由にしろと。元の世界に戻らないといけない気がしなくもないが、その世界のことなど何一つ覚えてやいないしそれならいつそこの世界を堪能してから戻る

うか、そんなこと考えて少女は再び道化師に向き直る。

「じゃあ、この世界を案内してくれる？ どこかお勧めの場所はないかしら」

「もちろん、それが案内人の役目ですから。ささ、お手を」

道化師が伸ばした手を少女は掴み、まるで親子のような二人は草原をゆっくりゆっくりと歩きだし。

いち、（後書き）

更新率は気まぐれです。はっぴーはろういん！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0925y/>

墜っこちた空

2011年10月31日16時15分発行